

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 横浜市立東永谷中学校



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)

+

2時限目
座学の時間 (50分)



+



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成31年2月5日（火）

■ク ラ ス：2年1組（35名）、2年2組（35名）

■オリンピアン：田中 和仁 先生（体操）【出場オリンピック／ロンドン大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間の授業の通して、オリンピックバリューや田中先生自身の経験を含めてオリンピックについて学んでいくと授業の目的を確認。
- ・クラス全員で体育館を雑巾掛けした後、柔軟体操とじゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて馬跳びを実施。チーム全員の合計回数で順位を競う。(70秒間×2回)

4. まとめ



- ・最後まで全力で取り組んでいたことが良かったと生徒に称えた後、座学の時間は田中先生自身の経験談等を交えつつ、運動の時間の取り組みを振り返りながら授業を進めていく予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・皆が運動の時間に実践したことや田中先生がオリンピック出場までに経験したことを踏まえ、さらにオリンピックについて学んでいくと授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューは、オリンピックが大切にしている「キーワード」だが、これはスポーツ以外にも皆の二津城生活に活かせる要素が多いと伝えた後、田中先生の経験を通してオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：3月の球技大会で優勝するために何が必要か、意識したいこと、取り組みたいことは何かを考えてみよう。

発表：最後まで諦めない気持ちを持つ、楽しむ気持ちを持つ、ベストを尽くす(エクセレンス)、皆で気持ちを1つにして頑張る、前向きな声をかける、クラスで仲良く協力する(フレンドシップ)、審判してくれる先生に感謝の気持ちを持つ、フェアプレー、相手と握手、相手と握手、勝っても負けても元気に挨拶する(リスバクト)等

4. まとめ



- ・今日学んだオリンピックバリューを思い出し、帰宅した際に家族に対して感謝の気持ちを出して伝えてほしい。
- ・夢を持っている人はその夢に向かって全力で取り組み、夢がまだ見つからない人は小さな夢を見つけてほしい、と伝え授業終了。

実施内容

■期 日：平成31年2月6日（水）

■ク ラ ス：2年3組（33名）、2年4組（34名）

■オリンピアン：中村 知春 先生（ラグビーフットボール）【出場オリンピック／リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間の授業を通じて皆と一緒にオリンピックやオリンピックバリューについて学んでいく、と授業の目的を確認。
- ・ラグビーは「リスペクト」を一番大切にしている。運動の時間は「リスペクト」の気持ちを意識して取り組むよう伝え、タグ取りを中心とした準備運動を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗でタグラグビーの試合を実施。(1試合 各2分間)
- ・次に試合をする班は、全員で作戦を立て、それ以外の班は試合を応援する。

4. まとめ



- ・2020年の東京大会では、ここ横浜市も競技会場となっている。座学の時間は中村先生自身がリオデジャネイロ大会に出場した際の経験談も交え運動の時間も振り返りながら、さらにオリンピックについて学んでいくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・リオデジャネイロ大会のアジア予選の映像を見せながら7人制ラグビーのルール等について解説。
- ・古代オリンピックにも触れながら、近代オリンピックを復興させてクーベルタンの考えやオリンピックの意義を伝える。
- ・オリンピックバリューが実際に感じられるリオデジャネイロ大会の映像やエピソードを紹介し、中村先生自身の経験談を伝える。

3. グループワーク



- 発問(3組)：球技大会で目標を達成するために何ができるかオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表(3組)：一人一人が全力で取り組む、作戦を立てる(エクセレンス)、仲間と協力する、皆で楽しむ(フレンドシップ)、思いやりをもって相手に感謝する、ルールを守る(リスペクト)等の意見が挙げられた。
- 発問(4組)：運動の時間を振り返り、良かったことを書き出した上で、次回ラグビーを行う際に意識したいことを考えてみよう。
- 発表(4組)：どのチームも一生懸命だった、次回は切り替えを早くする(エクセレンス)、全員がボールに触れ協力できた、次回はもっと攻めタグを取りに行く(フレンドシップ)、相手・審判に感謝し、挨拶の声を大きくする、ルールを守る(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは、人間として大切にすべき価値であり、それは皆の日常生活においても大切にしてほしいものである。
- ・これからの生活の中で、様々な勝負に直面する機会が何度もあると思うが、勝つこと以上に負けから学ぶことが多い。皆には「負けに価値を見出せる人間」になってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

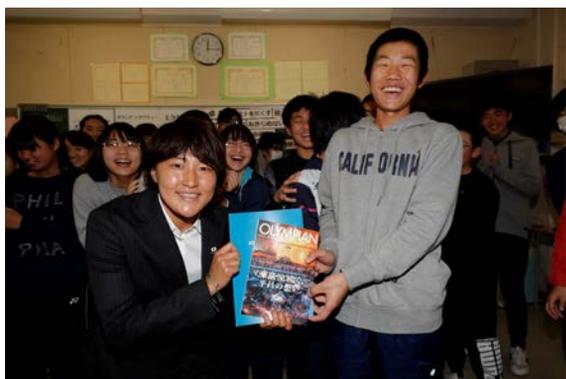
2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

